第３期平川市スポーツ推進計画（案）



平川市教育委員会

令和９年度～令和１３年度

目次

第１章　計画の策定にあたって……1
　１　計画の趣旨……1
　２　計画の位置づけ……1
　３　本計画におけるスポーツとは……2
　４　計画の期間……2
　５　計画策定の背景……3
　６　ＳＤＧｓとの関係……3
第２章　スポーツを取り巻く現状……4
　１　平川市の現状……4
　２　国の動向……4
　３　県の動向……5
　４　平川市の動向……6
　５　課題の整理……9
第３章　計画の基本的な目標と方針……12
　１　基本理念……12
　２　基本目標と方針……13
　３　施策体系図……14
第４章　具体的な取組……16
　１　ライフステージに応じたスポーツ活動の充実……16
　（１）　幼児期における運動遊びの推進……16
　（２）　児童生徒の運動習慣づくりと体力向上……16
　（３）　成人の健康づくり・運動習慣化の推進……17
　（４）　高齢者の介護予防・生きがいづくりスポーツの推進……17
　（５）　障がい者スポーツ及びインクルーシブスポーツの推進……18
　（６）　総合型地域スポーツクラブ・ニュースポーツ等の普及……18
　２　スポーツを支える環境づくりと担い手の育成……18
　（１）　スポーツ施設の維持管理・利活用の推進……18
　（２）　スポーツを支える担い手の育成・確保……19
　（３）　安全・安心な施設環境の整備……19
　３　地域資源を活かしたスポーツの推進……19
　（１）　地域イベント推進……20
　（２）　自然環境を活かした屋外スポーツの推進……20
　（３）　競技スポーツの振興と次世代アスリートの育成……20
第５章　計画の推進にあたって……21
　１　推進体制……21
　２　各主体の役割……21
　３　進行管理（ＰＤＣＡサイクル）……22

4　成果指標（ＫＰＩ）.....23
5　計画の周知・啓発.....23
第６章　市内スポーツ施設概要.....24
【資料】.....31

第１章　計画の策定にあたって

１　計画の趣旨

スポーツは、世界共通の人類の文化であり、心身の健康の保持増進に資するのみならず、青少年の健全育成、地域の活力醸成、人と人とのつながりの形成など、多面的な価値を有するものです。

本市においては、これまで平川市スポーツ推進計画に基づき、市民の健康保持・増進、体力の維持・向上、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりを推進してきました。

本計画は、これまでの取組の成果と課題を踏まえるとともに、国のスポーツ基本計画及び青森県スポーツ推進計画の方向性を参酌しながら、令和９年度以降の本市におけるスポーツ推進施策の基本的な方向を示すものです。

これまでの取組を振り返ると、平成２４年度に策定した「平川市生涯スポーツ推進計画」を起点に、現行の令和４年度から令和８年度までを計画期間とする２期目の「平川市スポーツ推進計画」へと引き継ぎ、スポーツ施策を計画的に推進してきました。

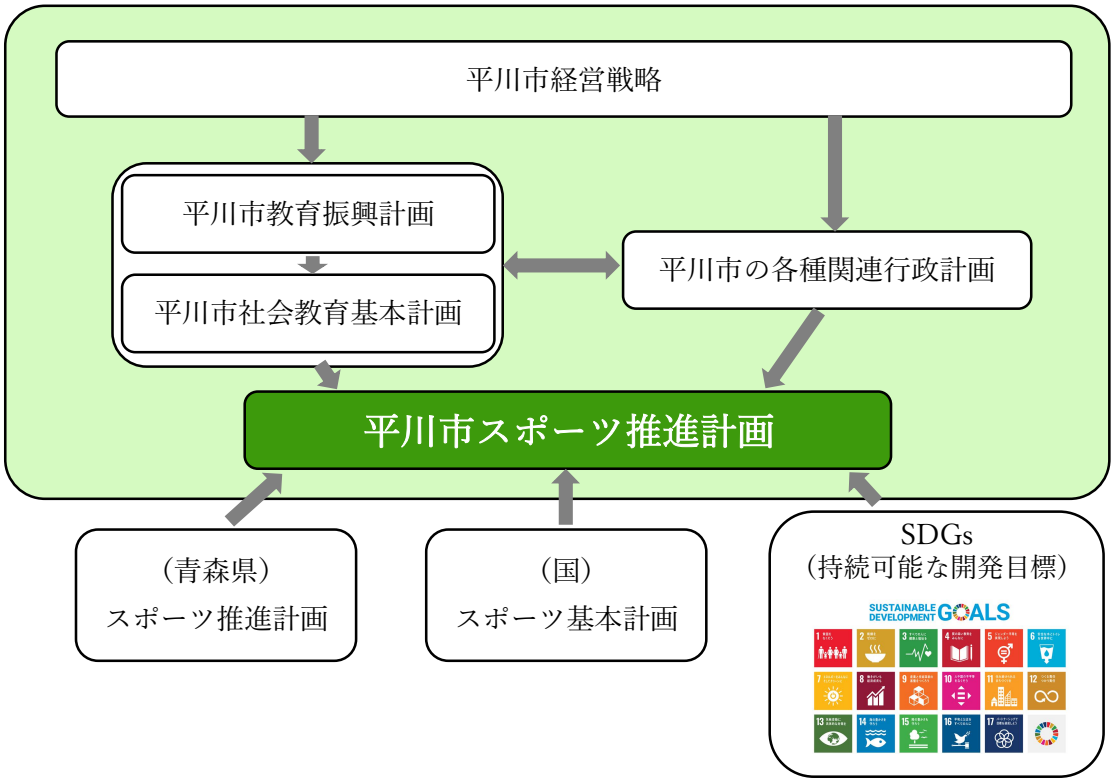
この現行の「平川市スポーツ推進計画」が令和８年度をもって計画期間を終了することから、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、国のスポーツ基本計画及び青森県スポーツ推進計画の方向性を参酌しながら、令和９年度以降の本市におけるスポーツ推進施策の基本的な方向を示すものとして、新たに「第３期平川市スポーツ推進計画」を策定します。

２　計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法（平成２３年法律第７８号）第１０条に基づき、地方の実情に即した地域スポーツ推進計画として策定するものです。

また、国のスポーツ基本計画及び青森県スポーツ推進計画を参酌するとともに、平川市経営戦略を上位計画とし、教育、健康、福祉、障がい、地域づくり等の関連計画との整合を図りながら、本市のスポーツ推進施策を総合的かつ計画的に推進するための指針として位置づけます。

さらに、本計画は、平川市経営戦略に掲げる「輝く未来　みんなで創る　平川市」の実現に向けた個別計画としての役割を担うものです。



3　本計画におけるスポーツとは

本計画におけるスポーツとは、競技として行われるスポーツ活動に加え、レクリエーションとして楽しむ軽スポーツやニュースポーツ、健康の保持増進を目的とした運動、さらには日常生活の中で行われる身体活動を広く含むものとして捉えます。

これは、スポーツ基本法が示す「スポーツを通じた心身の健全な発達及び豊かな生活の実現」という理念を踏まえ、市民一人一人が多様な形でスポーツに関わることを尊重するためです。

具体的には、競技大会への参加やクラブ活動などの競技スポーツ、楽しみながら体を動かすスポーツ・レクリエーション、ウォーキングや体操、ストレッチなどの健康づくりのための運動を対象とします。また、通勤・通学時の歩行、家庭内での軽度の身体活動など、生活の中で自然に行われる日常的な運動・身体活動についても、健康づくりの観点からスポーツの範囲に含めます。

一方で、電子機器上で行われる競技であるｅスポーツについては、本計画では対象外とします。ただし、今後の社会動向や国・県の計画改定等を踏まえ、必要に応じて検討を行うものとします。

本計画では、このようにスポーツを広く捉えることで、市民の年齢、体力、生活環境に応じた多様なスポーツの機会の確保の実現を目指します。

4　計画の期間

本計画の期間は、令和９年度から令和１３年度までの５年間とします。

なお、社会状況の変化、国・県の計画改定、スポーツを取り巻く環境の変化等を踏まえ、必要に応じて見直しを行うものとします。

5　計画策定の背景

近年、少子高齢化の進行、ライフスタイルの多様化、健康志向の高まり、共生社会の実現に向けた取組の進展など、スポーツを取り巻く社会環境は大きく変化しています。

国では、第４期スポーツ基本計画において、スポーツを「する」「みる」「ささえる」機会の充実、ウェルビーイング（幸福度）の向上、インクルーシブ（誰もが参加できる）スポーツの推進、部活動の地域展開などを重視しています。

本市においても、これらの動向を踏まえながら、市民の誰もが生涯にわたって心身ともに健康で豊かな生活を実現できるよう、地域の実情に即したスポーツ施策を推進していく必要があります。

6　ＳＤＧｓとの関係

本計画は、上位計画である平川市経営戦略の基本構想の考え方を踏まえ、スポーツ施策を通じてＳＤＧｓの達成に貢献することを目指します。

ＳＤＧｓは、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指す国際社会共通の目標です。

本計画では、上位計画との整合を図りつつ、スポーツ施策と特に関連の深い次の４つのゴールを重点として位置づけます。

	**すべての人に健康と福祉を**	運動習慣の定着による健康増進・介護予防
	**ジェンダー平等を実現しよう**	性別を問わず誰もが参加できるスポーツの機会の確保
	**住み続けられるまちづくりを**	学校・地域・団体・行政の連携による推進
	**パートナーシップで目標を達成しよう**	学校・地域・団体・行政の連携による推進

なお、目標１１は、上位計画で掲げる主要ゴールに加え、本計画の施設整備・地域活性化の観点から独自に位置づけるものです。

本計画が掲げる「誰もが、いつでも、いつまでもスポーツを楽しめるまち　ひらかわ」の理念は、「誰一人取り残さない」というＳＤＧｓの理念と軌を一にするものです。

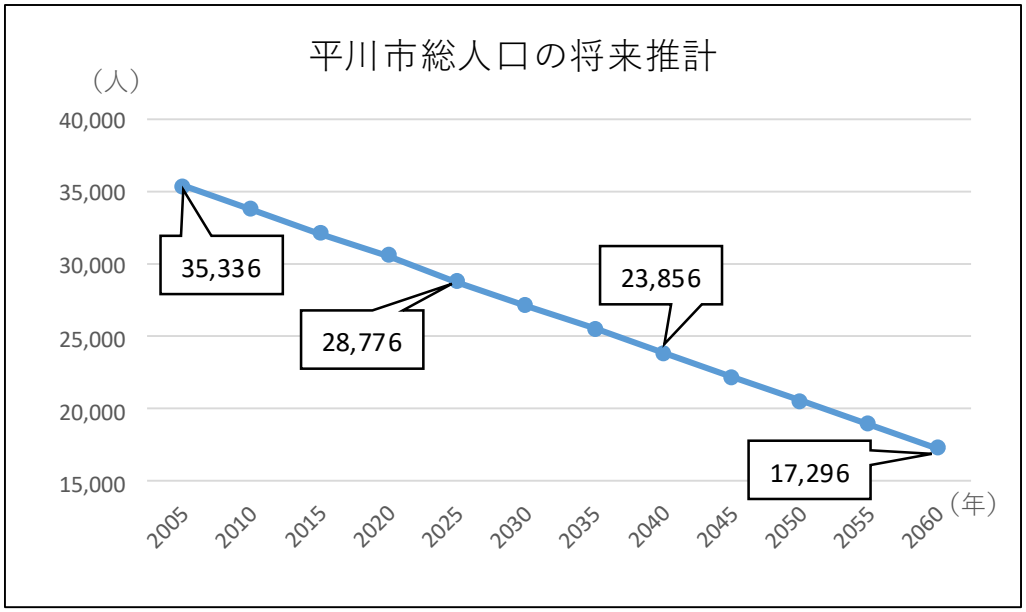
第２章　スポーツを取り巻く現状

1　平川市の現状

本市の人口は減少しており、令和７（２０２５）年では２８，７７６人となっています（令和７年国勢調査）。以前の国勢調査の減少数がおよそ比例していることから傾きを導き推計したところ、令和３４（２０５２）年には２万人を下回り、令和４２（２０６０）年には１万７千人となる見込みです。

人口構造の変化や生活様式の多様化に伴い、市民のスポーツへの関わり方も多様化しています。健康づくりや生きがいづくりの観点からスポーツへの期待が高まる一方で、年齢、生活環境、就労状況、体力等により、スポーツ実施状況には差が見られます。

このため、本計画では、本市の人口動向、健康状況、スポーツ実施率、児童生徒の体力・運動能力、スポーツ環境及び施設の状況等を総合的に整理し、現状と課題を明らかにします。過去計画においても、「人口」「健康」「子どもの体力・運動能力」「スポーツ環境」「スポーツ施設」「スポーツ施設利用実績」等を現状分析の柱として整理しています。



2　国の動向

国においては、スポーツ基本法に基づき、スポーツを国民生活における重要な文化として位置づけ、スポーツを通じたウェルビーイングの向上、地域活性化、共生社会の実現を目指した施策を総合的に推進しています。第３期スポーツ基本計画では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」機会の充実、健康増進、競技力向上、地域スポーツの担い手確保などが重点的に示されてきました。

さらに、令和７（２０２５）年のスポーツ基本法の一部改正では、スポーツを通じたウェルビーイングの向上、安全・安心の確保、スポーツＤＸの推進、部活動の地域展開の加速など、社会環境の変化に対応した新たな視点が追加されました。これにより、スポーツを通じた心身の健康のみならず、社会的

つながり、地域コミュニティの形成、デジタル技術の活用による参加機会の拡大などが、国のスポーツ政策の重要な柱として位置づけられています。

令和８（２０２６）年度現在策定が進められている第４期スポーツ基本計画（中間報告案）では、従来の「する」「みる」「ささえる」の枠組みを維持しつつ、次の新たな重点領域が示されています。

・ウェルビーイングの向上：
　スポーツを通じた幸福感、自己肯定感、社会的つながりの強化
・スポーツＤＸの推進：
　デジタル技術を活用した参加機会の拡大、データ活用による健康管理、オンラインスポーツの普及
・安全・安心の確保：
　スポーツ事故防止、熱中症対策、施設の安全性向上
・部活動の地域展開の推進：
　学校部活動の地域クラブへの移行を支える体制整備
・インクルーシブスポーツの推進：
　障がいの有無にかかわらず誰もが参加できる環境整備
・地域スポーツの持続可能性：
　人口減少社会に対応した担い手確保、総合型地域スポーツクラブの機能強化
・国際競技力の向上：
　次世代アスリート育成、科学的トレーニングの推進

これらの国の動向は、スポーツを通じた健康づくりや地域活性化を重視する本市の施策と方向性を同じくするものであり、本計画においても、国の最新の政策動向を踏まえた施策展開を図ります。

３　県の動向

青森県では、国のスポーツ基本計画及びスポーツ基本法の改正内容を踏まえ、県民が生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりを推進しています。特に、少子化の進行や生活様式の変化により、スポーツへの参加機会や地域スポーツの担い手の確保が困難となっていることから、健康づくり、地域活性化、競技力向上を柱とした総合的なスポーツ施策を展開しています。

令和８（２０２６）年には、県教育委員会が青森県公立中学校における部活動の地域展開推進計画〔第２版〕を策定し、従来の学校部活動の在り方を見直し、地域全体でスポーツ・文化芸術活動を支える体制への転換を進めています。同計画では、令和８年度から令和１３年度までを改革実行期間と位置づけ、休日の部活動の地域展開を原則すべての学校で実現することを目指しています。また、地域クラブ活動の認定制度を導入し、教育的意義の継承、安全管理、指導体制、参加費の適正化など、質の担保を図りながら持続可能な地域スポーツ環境の構築を進めています。

県内の部活動を取り巻く状況としては、少子化に伴い運動部・文化部の設置数及び加入生徒数が大幅に減少しており、特に団体競技では単独校での活動維持が困難となっています。このため、複数校による合同チームの増加や、地域スポーツクラブへの加入者の増加が顕著となっています。令和７年度には、地域クラブの登録申請数が１７４団体に達し、地域クラブ活動が県内の中学生のスポーツの機会を支える重要な役割を担いつつあります。

さらに、青森県スポーツ推進計画では、スポーツを通じた健康寿命の延伸、地域コミュニティの活性化、インクルーシブスポーツの推進、競技力向上などを重点施策として掲げています。特に、冬季の厳しい気候や広域分散型の地域特性を踏まえ、屋内施設の有効活用、総合型地域スポーツクラブの機能強化、地域資源を活かしたスポーツの推進など、地域事情に応じた施策が求められています。

これらの県の動向は、スポーツを通じた健康づくりや地域の活力向上を目指す本市の施策と方向性を同じくするものであり、本計画においても、県の最新の政策動向を踏まえた施策展開を図ります。

4　平川市の動向

本市では、これまでスポーツ推進計画に基づき、市民の健康保持・増進、体力の維持・向上、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりを進めてきました。一方で、人口減少や少子高齢化の進行、生活様式の変化、地域スポーツの担い手不足などスポーツを取り巻く環境は大きく変化しています。

人口動態の面では、令和７（２０２５）年の国勢調査において本市の人口は２８，７７６人となり、今後も減少が続くことが見込まれています。特に児童生徒数の減少は顕著であり、学校部活動の維持や地域スポーツの担い手確保に影響を及ぼしています。こうした状況は、国が示す部活動の地域展開や、県が策定した青森県公立中学校における部活動の地域展開推進計画〔第２版〕の方向性とも一致しており、本市においても学校と地域が連携した持続可能なスポーツ環境の構築が求められています。

４－１　成人のスポーツ実施率について

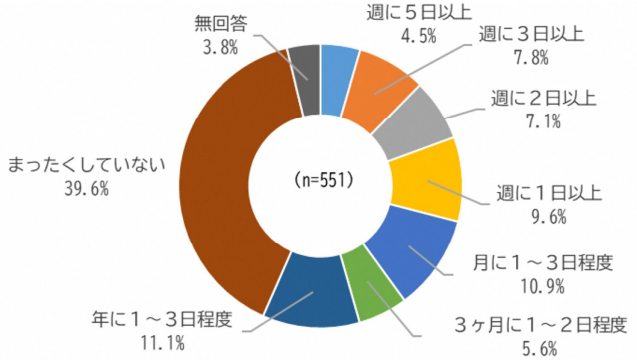
成人期は、就労、子育て、介護等により生活時間が限られ、運動やスポーツに取り組む機会が減少しやすい年代です。

令和７年度、本市では、第３次平川市長期総合プラン基本計画の策定のための基礎資料とすることを目的として、令和７年度市民意識調査（以下「市民意識調査」という。）を実施しました。本計画においては、市民意識調査の結果を基に策定し、今後のスポーツ施策の参考とします。

市民意識調査によると、過去１年間に運動やスポーツを行った日数について、「まったくしていない」が３９．６％と突出して高く、次いで「年に１～３日程度」が１１．１％となっており、合わせて５０．７％の市民が、年に３日以内しか運動やスポーツを行っていない状況にあります。

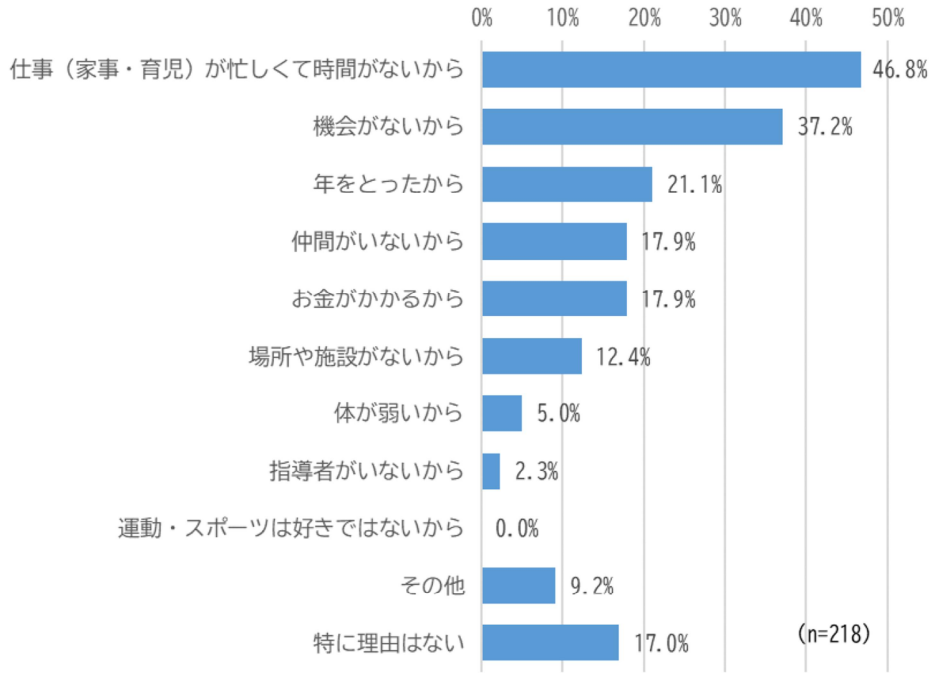
一方で、週に１日以上運動やスポーツを行っている市民の割合は２９．０％にとどまり、そのうち「週に５日以上」行っている割合は４．５％となっています。

このことから、本市の成人においては、運動やスポーツを習慣的に行っている層が限られており、市民の運動・スポーツ習慣の定着が課題となっています。



また、運動やスポーツを「まったくしていない」と回答した人の理由としては、「仕事（家事・育児）が忙しくて時間がないから」が４６．８％と半数近くを占め、次いで「機会がないから」が３７．２％、「年をとったから」が２１．１％となっています。

なお、「特に理由はない」も１７．０％となっており、明確な理由がないまま運動・スポーツから遠ざかっている層が一定数いることがうかがえます。



これらの結果を踏まえると、働く世代や子育て世代が、限られた時間の中でも無理なく気軽に取り組めるスポーツの機会・場の創出、さらにはスポーツへの関心を高める意識づくりが求められます。

このため、本計画では、健康づくりや生活習慣病予防の観点を取り入れながら、誰もが無理なく継続できる身近なスポーツの機会の確保を図ります。

国の第４期スポーツ基本計画の検討においても、子育て・働き盛り期（２０～５０代）は、仕事・家事・育児による忙しさを背景にスポーツ実施率が低い状況が続いていることが課題として整理されています。

「仕事が忙しくて時間がないから」を最大の理由とする本市の状況も、こうした国全体の傾向と共通しており、働く世代・子育て世代への環境整備が特に重要となります。

４－２　児童生徒の体力・運動能力について

（１）小学５年生の体力の現状と課題

本市の小学５年生の体力は、全国・県平均との比較において、いくつかの特徴が見られます。

２０２５年度の全国・県との比較では、市の児童は反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げの３種目で全国平均を上回り、特に投げる能力と跳躍能力が優秀です。男子は反復横とび（市４４．５９回／全国４０．９０回）、立ち幅とび（市１５５．４７ｃｍ／全国１５０．９６ｃｍ）で顕著な成果を示しており、女子もソフトボール投げ（市１６．０６ｍ／全国１３．１０ｍ）で全８種目中７種目で全国平均を上回るなど、全体的に良好な成績を維持しています。

柔軟性の改善は注目すべき成果です。２０２１年の結果と比べると、男子の長座体前屈は３１．２４ｃｍ（２０２１年）から３４．３８ｃｍ（２０２５年）へ、女子も３４．８８ｃｍから４０．１５ｃｍへと改善しており、特に女子の柔軟性向上は顕著です。

（２）中学２年生の体力の現状と課題

本市の中学２年生の体力は、小学５年生以上に全国平均との差が顕著です。

２０２５年度の全国・県との比較では、市の男子生徒は握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ハンドボール投げの５種目で全国平均を上回り、特に立ち幅とび（市２０６．１７ｃｍ／全国１９７．５０ｃｍ）は全国平均を大きく上回る優秀な成績を示しています。女子生徒も上体起こし、反復横とび、ハンドボール投げで全国平均を上回るなど、総合的に良好な水準を保っています。

また、２０２１年の結果と比べると、男子は立ち幅とびが１９６．２３ｃｍから２０６．１７ｃｍへ、反復横とび５２．３１ｃｍから５４．７５ｃｍと改善傾向を示しており、跳躍能力と敏しょう性は強化されています。

2025年		男子						女子					
		小学5年生			中学2年生			小学5年生			中学2年生		
種目	（単位）	全国	県	市	全国	県	市	全国	県	市	全国	県	市
握力	(kg)	15.97	16.38	**15.89**	28.91	29.83	**30.09** ↑	15.61	16.31	**16.90**	23.12	23.28	**22.98**
上体起こし	(回)	19.45	19.81	**18.85**	25.99	26.30	**26.91** ↑	18.36	19.07	**18.79**	21.62	21.39	**22.06** ↑
長座体前屈	(cm)	33.88	32.34	**34.38**	44.98	46.34	**44.83**	38.17	36.69	**40.15**	46.97	47.75	**44.88**
反復横とび	(回)	40.90	42.96	**44.59** ↑	51.63	52.20	**54.75** ↑	38.71	41.30	**42.33** ↑	45.77	45.80	**47.51** ↑
20mシャトルラン	(回)	47.95	49.87	**49.40**	78.59	76.98	**76.16**	36.87	42.08	**41.49**	50.44	48.56	**45.55**
50m走	(秒)	9.46	9.67	**9.84**	8.00	7.94	**8.01**	9.77	9.83	**9.49**	8.97	8.97	**9.15**
立ち幅とび	(cm)	150.96	151.04	**155.47** ↑	197.50	198.53	**206.17** ↑	142.39	142.98	**147.59** ↑	166.39	164.70	**165.67**
ソフトボール投げ(小学) ハンドボール投げ(中学)	(m)	21.06	21.41	**23.43** ↑	20.66	20.34	**21.40** ↑	13.10	13.93	**16.06** ↑	12.36	12.33	**12.78** ↑

小学5年生
市男子： 反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げで全国・県を上回る
市女子： 全8種目中7種目で全国を上回り、特に投げる能力（ソフトボール投げ）が顕著に優秀

中学2年生
市男子： 握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ハンドボール投げで全国・県を上回る
市女子： 上体起こし、反復横とび、ハンドボール投げで全国を上回る
特に立ち幅とび（206.17）は全国（197.50）を大きく上回る

４－３　スポーツ施設について

スポーツ環境の面では、既存施設の老朽化や維持管理の負担、冬季の利用制約、地域スポーツ団体の担い手不足などが課題となっています。特に、学校部活動の地域展開が進む中で、地域クラブ活動の増加や指導者の確保、施設利用調整など、地域全体でスポーツを支える体制づくりが重要となっています。

また、本市の地域特性である自然環境などの地域資源は、健康づくりや屋外スポーツの推進に活用できる強みです。トレイルランニング、ウォーキング、農村環境を活かした体力づくりなど、地域資源を活用したスポーツの可能性が広がっています。

これらの状況を踏まえ、本計画では、児童生徒の体力向上、成人の運動習慣の定着、地域スポーツの担い手確保、施設の適切な維持管理、地域資源を活かしたスポーツの推進などを重点的に取り組むべき課題として整理します。国の第４期スポーツ基本計画が掲げる「ウェルビーイングの向上」「インクルーシブスポーツ」「部活動の地域展開」といった新たな視点や、県の最新の政策動向とも整合を図りながら、本市の実情に即したスポーツ推進施策を展開します。

5　課題の整理

国の第４期スポーツ基本計画の方向性、令和７（２０２５）年のスポーツ基本法改正、令和８（２０２６）年の青森県公立中学校における部活動地域展開推進計画〔第２版〕、そして本市の現状を踏まえると、平川市のスポーツ推進における主な課題は次のとおり整理されます。

５－１　ライフステージに応じたスポーツの機会の不足

５－１－１　児童生徒

小学５年生の体力は過去５年間（２０２１～２０２５年度）の推移を見ると、課題が浮かび上がります。男子の握力は１６．９２kg（２０２１年）から１５．８９kg（２０２５年）へと約１．０kg低下し、女子も同様に筋力系の低下傾向が見られます。さらに懸念されるのは、全身持久力を示す２０ｍシャトルランの低下です。男子は５２．５４回（２０２１年）から４９．４０回（２０２５年）へ、女子は４６．１８回（２０２１年）から４１．４９回（２０２５年）へと、いずれも大幅に低下しています。

こうした体力低下の背景には、子どもの外遊びの機会が減少していることや、積雪寒冷な気候特性により冬季の運動機会が不足しやすいことがあると考えられます。日常的に体を動かす習慣が定着しにくい環境にあり、季節を問わず楽しみながら運動に親しめるスポーツの機会の確保が求められます。

課題の整理

・全身持久力の低下：有酸素運動習慣の定着不足
・筋力系の低下：基礎体力の維持・向上の必要性
・柔軟性の改善は継続維持が必要
・外遊びの減少・冬季の運動機会不足：季節を問わないスポーツの機会の確保が必要

小学5年生　市の5年推移分析（2021～2025年）												
	男子の推移						女子の推移					
種目	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	傾向	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	傾向
握力　(kg)	16.92	16.86	16.86	16.10	15.89	↓ 減少	17.03	17.21	17.21	15.52	16.90	→ 安定（2024年低下）
上体起こし　(回)	19.22	18.30	18.30	18.69	18.85	↓ やや低下	18.74	17.93	17.93	17.09	18.79	→ 安定
長座体前屈　(cm)	31.24	31.50	31.50	33.00	34.38	↑ 改善	34.88	36.89	36.89	35.99	40.15	↑ 改善
反復横とび　(回)	43.67	40.54	40.54	43.75	44.59	→ 安定・改善	43.03	41.44	41.44	40.77	42.33	→ 安定
20mシャトルラン　(回)	52.54	47.53	47.53	50.27	49.40	↓ 低下傾向	46.18	42.15	42.15	38.44	41.49	↓ 低下傾向
50m走　(秒)	9.94	9.68	9.68	9.60	9.84	→ 安定	9.73	9.73	9.73	9.88	9.49	↑ 改善
立ち幅とび　(cm)	150.91	151.35	151.35	151.91	155.47	↑ 改善	145.80	145.40	145.40	144.40	147.59	↑ 改善
ソフトボール投げ　(m)	22.00	22.25	22.25	24.61	23.43	↑ 改善	16.39	15.94	15.94	15.17	16.06	→ 安定

中学２年生の体力は過去５年間（２０２１～２０２５年度）の推移では、懸念すべき傾向が見られます。特に女子生徒の２０２５年度の全体的な低下が顕著です。女子の握力は２３．９６kg（２０２１年）から２２．９８kg（２０２５年）へ、上体起こしは２２．９７回から２２．０６回へ、長座体前屈は４９．１３ｃｍから４４．８８ｃｍへと、ほぼ全種目で低下しています。最も懸念されるのは、２０ｍシャトルランの大幅低下で、４９．０５回（２０２１年）から４５．５５回（２０２５年）へと約３．５回低下しており、全身持久力の著しい低下が明らかです。

男子生徒も同様の課題を抱えており、２０ｍシャトルランは一度７０．６８回（２０２１年）から８０．７８回（２０２２年）へ大幅に改善されたものの７６．１６回（２０２５年）へ低下傾向です。

課題の整理

・全身持久力の著しい低下：特に女子生徒で顕著
・女子生徒の体力全般の低下：運動習慣の定着不足が懸念される
・筋力系の低下傾向：男女ともに握力・上体起こしが低下
・跳躍能力と敏捷性は改善傾向で、継続維持・強化が必要
・部活動の地域展開を見据えた、子どものスポーツの機会の確保が必要

中学2年生　市の5年推移分析（2021～2025年）												
	男子の推移						女子の推移					
種目	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	傾向	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	傾向
握力　(kg)	31.04	30.78	30.78	29.59	30.09	↓ やや低下	23.96	23.76	23.76	24.32	22.98	↓ 低下
上体起こし　(回)	27.13	27.71	27.82	26.70	26.91	↓ 低下	22.97	22.80	22.80	23.75	22.06	↓ 低下
長座体前屈　(cm)	42.12	44.28	44.82	45.76	44.83	↑ 改善	49.13	48.14	48.14	48.04	44.88	↓ 低下
反復横とび　(回)	52.31	52.63	53.11	55.40	54.75	↑ 改善	46.93	48.66	48.66	49.60	47.51	↓ 低下
20mシャトルラン　(回)	70.68	80.78	79.21	77.20	76.16	↓ 低下傾向	49.05	49.67	49.67	53.79	45.55	↓ 大幅低下
50m走　(秒)	8.27	8.12	8.06	8.03	8.01	↑ 改善	9.29	9.15	9.15	8.79	9.15	→ 安定
立ち幅とび　(cm)	196.23	200.53	201.37	208.85	206.17	↑ 改善	167.76	171.29	171.29	174.36	165.67	↓ 低下
ハンドボール投げ　(m)	20.75	21.47	21.53	21.26	21.40	→ 安定	13.68	12.93	12.93	13.55	12.78	↓ 低下傾向

５－１－２　成人

働き方や生活時間の制約により運動習慣が定着しにくく、スポーツ実施率も十分に高いとは言えません。市民アンケートでは「運動不足を感じている」「身近に運動できる場所がほしい」といった声が多く、無理なく継続できるスポーツの機会の確保が求められます。

５－１－３　高齢者

高齢化の進行に伴い、介護予防やフレイル予防の観点から、継続的な運動習慣の確立が重要です。一方で、移動手段の制約、交流の場の不足、冬季の活動機会の減少などにより、スポーツへの参加が途切れやすい状況です。

５－１－４　障がい者（インクルーシブスポーツを含む）

障がいの有無にかかわらずスポーツに参加できる環境整備は、国の第４期スポーツ基本計画でも重点領域として位置づけられています。

本市でも障がい者スポーツ教室や共生スポーツイベントを実施していますが、専門性のある指導者の不足、施設のバリアフリー化の不足、参加機会の選択肢の少なさなどが課題となっています。

インクルーシブスポーツの推進には、障がい者だけでなく、子ども・高齢者・多様な市民が共に参加できる環境づくりが必要です。

５－２　少子化・人口減少に伴うスポーツ環境の縮小と担い手不足

本市の人口は今後も減少が見込まれ、特に児童生徒数の減少は顕著です。学校部活動の維持が困難となり、団体競技では単独校での活動ができず合同チームが増加しています。地域スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブでも担い手不足が深刻化しており、指導者の確保、運営体制の維持が課題となっています。

また、競技スポーツの面でも、専門的な指導ができる指導者の不足や、各競技における競技人口の減少が進んでおり、ジュニア世代を始めとする次世代の育成基盤がぜい弱化しつつあります。このため、競技力の維持・向上と裾野の拡大の両面から、指導体制の充実が求められます。

国が示す部活動の地域展開、県が進める地域クラブ活動の認定制度の導入により、地域全体でスポーツを支える体制づくりが求められますが、本市においても指導者の育成・確保、地域クラブとの連携強化が課題となっています。

５－３　スポーツ施設の老朽化・冬季利用の制約・安全管理の強化

本市のスポーツ施設は、既存施設の老朽化や維持管理の負担、冬季の利用制約などが課題となっています。

このため、施設の計画的な維持管理・修繕を進めるとともに、市民が安全・安心に利用できるよう、安全管理体制の強化や、誰もが利用しやすい施設環境の整備が求められます。

また、冬季でも運動できる屋内環境の有効活用など、地域の気候特性に応じた環境づくりも重要です。

５－４　地域資源を活かしたスポーツ推進の可能性

本市の地域特性である豊かな自然環境などの地域資源は、健康づくりや屋外スポーツの推進に活用できる強みです。

トレイルランニングやウォーキング、農村環境を活かした体力づくりなど、地域資源を活用したスポーツの可能性が広がっており、これらを地域活性化にもつなげていくことが期待されます。

５－５　スポーツを通じた地域コミュニティの希薄化

人口減少や生活様式の変化により、地域のつながりが弱まりつつあります。スポーツは世代間交流や地域コミュニティの形成に寄与しますが、地域スポーツイベントや多世代交流の場が十分に確保されていない現状です。スポーツを通じた「つながり/あつまる」機会の創出が求められます。

第３章　計画の基本的な目標と方針

1　基本理念

基本理念：誰もが、いつでも、いつまでもスポーツを楽しめるまち　ひらかわ

本計画では、市民の誰もが、年齢や体力、障がいの有無等にかかわらず、生涯にわたってスポーツに親しめるまちを目指し、「誰もが、いつでも、いつまでもスポーツを楽しめるまち　ひらかわ」を基本理念に掲げます。

スポーツを「する」「みる」「ささえる」、スポーツで「つくる」「つながる/あつまる」という多様な関わり方を通じて、市民の健康づくりと生きがいづくりを進めるとともに、スポーツを通じた人と人、世代と地域のつながりを育み、地域の活力を高めていきます。

この理念には、次の３つの考えた方に沿っています。

「誰もが」　…　子どもから高齢者まで、年齢や性別、体力、障がいの有無にかかわらず、市民の誰もがスポーツを楽しめること。

「いつでも」　…　平日でも休日でも、また冬季でも、生活のなかにスポーツがあること。

「いつまでも」　…　一時的ではなく、生涯にわたって、無理なく続けられること。



そして、基本理念の「スポーツを楽しむ」とは、自分で体を動かす（「する」）ことだけを指すものではありません。

試合や大会を「みる」こと、指導やボランティアで「ささえる」こと、教室やイベントなどの機会を「つくる」こと、そしてスポーツを通じて人と人が「つながる/あつまる」ことなど、多様な関わり方すべてを含みます。市民一人ひとりが、それぞれのスタイルでスポーツと関わることで、健康で生きがいのある暮らしを実現するとともに、人と人、世代と地域がつながり、まち全体が元気になっていきます。本計画は、このような「スポーツで元気なまち」の実現を目指します。

スポーツへの多様な関わり方

本計画では、国の考え方も踏まえ、市民のスポーツへの関わり方を次の５つの視点で捉えます。

関わり方	内容
する	自ら運動・スポーツに取り組む
みる	大会・試合の観戦、スポーツ映像の視聴等を楽しむ
ささえる	指導、審判、運営、ボランティア等でスポーツを支える
つくる	教室・イベント・クラブ・場づくりなど、スポーツの機会や環境を生み出す・育てる
つながる/あつまる	スポーツを通じて人と人、世代と地域がつながり、交流する
誰もがアクセスできる	年齢、性別、障がいの有無、経済的事情、地域事情等に関わらず、すべての人がスポーツにアクセスできるような社会の実現

2　基本目標と方針

本計画では、基本理念「誰もが、いつでも、いつまでもスポーツを楽しめるまち　ひらかわ」の実現に向け、次の３つを基本目標として施策を展開します。

これらの目標のもと、市民のスポーツへの多様な関わり方（する・みる・ささえる・つくる・つながる/あつまる）を広げ、誰もがスポーツに参画できる環境づくりを進めます。

基本目標１　スポーツを通じた健康づくりと生きがいづくり

市民の誰もが、ライフステージや体力、目的に応じて、生涯にわたり運動・スポーツに親しめるよう、多様なスポーツの機会の充実を図ります。

特に、幼少期から青年期には、外遊びの推奨や基礎体力づくり、冬季運動の推進、ゆるスポーツの導入などを通じて、楽しみながら運動に親しみ、運動習慣を定着させる環境づくりを進めます。

また、運動習慣が定着しにくい成人や、介護予防・フレイル予防が重要となる高齢者には、軽運動の普及やウォーキングの推進、地域のサロン活動との連携などを図り、健康的に過ごせる環境を整えます。あわせて、障がいのある方など、それぞれの状況に応じたスポーツの機会を充実させ、市民の健康づくりと生きがいづくりを支えます。

基本目標２　スポーツを支える環境づくりと担い手の育成

市民が安全・安心にスポーツを楽しめるよう、スポーツ施設の適切な維持管理と、誰もが利用しやすい環境の整備を進めます。

あわせて、指導者やスポーツ推進委員、地域スポーツクラブなど、スポーツを支える担い手の育成・確保を進め、地域全体でスポーツを支える体制づくりを推進します。

また、指導者の育成やジュニア世代の育成、練習環境の整備を通じて、競技スポーツの裾野の拡大と競技力の向上を図り、スポーツに打ち込む市民を支えます。

基本目標３　スポーツを活かした地域の活性化と交流の促進

本市の豊かな自然環境や地域資源を活かし、スポーツを通じた交流の拡大と地域の活性化を図ります。

森林公園などの地域資源の活用や、農村景観を活かしたウォーキングイベントの開催など、地域の魅力を発信する取組を進めるとともに、スポーツイベントや競技スポーツの振興などを通じて、市内外の人々の交流を促し、まちのにぎわいと元気を生み出します。

3　施策体系図

本計画では、基本理念「誰もが、いつでも、いつまでもスポーツを楽しめるまち　ひらかわ」のもとに、基本目標、施策及び主な取組を体系的に整理し、計画全体の方向性を分かりやすく示します。

基本理念は、スポーツに対する５つの多様な関わり方（する・みる・ささえる・つくる・つながる/あつまる）を通じて実現されるものであり、これらの関わり方が相互に補完し、市民全体のスポーツ参加と地域のスポーツ文化の醸成につながるものと考えます。

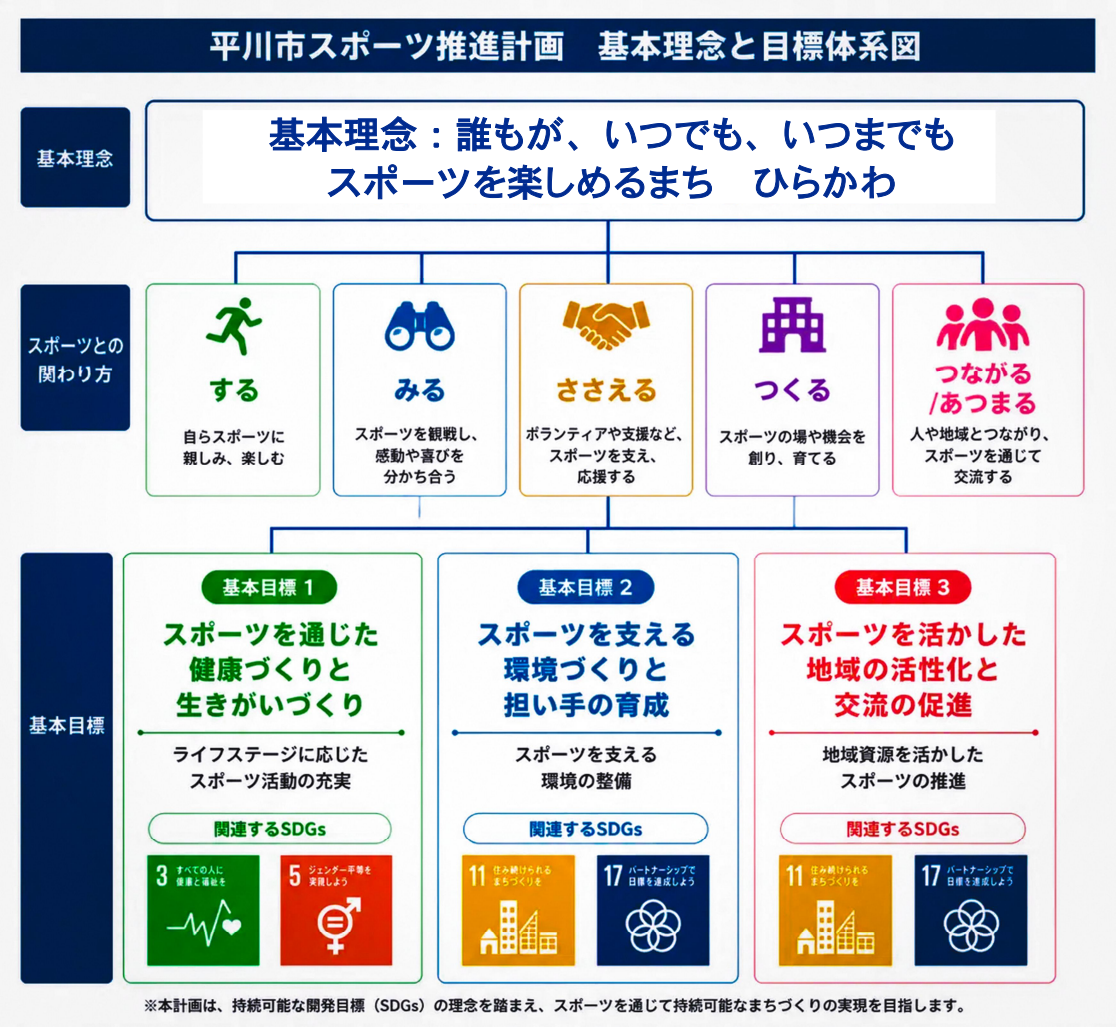
この基本理念を実現するため、本計画では３つの基本目標を設定しています。

基本目標１「スポーツを通じた健康づくりと生きがいづくり」では、ライフステージに応じたスポーツ活動の充実を通じて、市民の心身の健康増進と生きがいの創出を目指します。これは、ＳＤＧｓ目標３（すべての人に健康と福祉を）及び目標５（ジェンダー平等を実現しよう）と整合するものです。

基本目標２「スポーツを支える環境づくりと担い手の育成」では、スポーツを支える環境の整備と、スポーツ指導者・ボランティア等の担い手育成を推進し、持続可能なスポーツ推進体制の構築を目指します。これは、ＳＤＧｓ目標１１（住み続けられるまちづくりを）及び目標１７（パートナーシップで目標を達成しよう）と整合するものです。

基本目標３「スポーツを活かした地域の活性化と交流の促進」では、地域資源を活かしたスポーツの推進を通じて、地域経済の活性化と市内外の交流拡大を目指します。これは、ＳＤＧｓ目標１１及び目標１７と整合するものです。

各基本目標のもとに、具体的な施策と主な取組を位置づけることで、市民、学校、スポーツ団体、企業等の多様な主体が連携・協働し、計画の実現に向けた取組を推進していきます。



第４章　具体的な取組

本章では、第３章で掲げた３つの基本目標を実現するための具体的な施策と取組を示します。各施策は、市民のスポーツへの多様な関わり方（する・みる・ささえる・つくる・つながる/あつまる）を広げる視点から展開します。

１　ライフステージに応じたスポーツ活動の充実

【基本目標１　スポーツを通じた健康づくりと生きがいづくり】

市民の誰もが、それぞれのライフステージや体力、年齢、目的に応じて、生涯にわたりスポーツに親しめるよう、多様なスポーツの機会の充実を図ります。

子どもの体力向上、運動習慣が定着しにくい成人への働きかけ、高齢者の介護予防、障がいのある方の参加促進など、それぞれの状況に応じた取組を進めます。

（１）　幼児期における運動遊びの推進

▶関わり方：する・つながる/あつまる　　ＳＤＧｓ：３・４

幼児期は、体を動かす楽しさを知り、生涯にわたる運動習慣の基礎を育む大切な時期です。親子やこども園での運動遊びの機会を通じて、遊びの中で自然に体を動かす習慣づくりを進めます。

主な取組	内容
幼児向け運動遊びの推進	○親子で参加できる運動遊び教室・イベントの開催 ○保育所・幼稚園・認定こども園と連携した運動遊びプログラムの普及 ○積雪期でも体を動かせる屋内での遊び場・機会の確保 ○外遊びの楽しさを伝える取組の推進と保護者への啓発

（２）　児童生徒の運動習慣づくりと体力向上

▶関わり方：する・みる　　ＳＤＧｓ：３・４

本市の児童生徒は、新体力テストにおいて全国平均を下回る項目が見られ、持久力や基礎的な運動能力の向上が課題となっています。

学校・家庭・地域が連携し、日常的に体を動かす機会を確保するとともに、冬季でも運動できる環境づくりを進めます。

主な取組	内容
放課後・地域での運動機会の充実	放課後スポーツクラブ、子ども向けスポーツフェスティバル
児童生徒の運動の推進	○全身持久力・基礎体力の向上に向けた運動プログラムの推進 ○学校・家庭・地域が連携した日常的な運動機会の確保 ○外遊びの推奨と、冬季でも運動できる屋内環境の活用 ○学校部活動の地域展開に向けた環境整備（地域クラブ活動との連携） ○楽しみながら取り組めるゆるスポーツ・ニュースポーツの導入




スポーツ推進委員による軽スポーツ巡回教室の様子（左：こども園、右；小学校親子レク）

（3）　成人の健康づくり・運動習慣化の推進

▶関わり方：する　　ＳＤＧｓ：３

市民意識調査では、運動やスポーツを「まったくしていない」市民の割合が高く、その理由として「仕事（家事・育児）が忙しくて時間がない」が最も多くなっています。

働く世代や子育て世代が、限られた時間の中でも無理なく続けられるよう、身近で気軽に取り組める運動・スポーツの機会の確保を進めます。

主な取組	内容
健康づくり・運動習慣化の推進	○短時間・気軽に取り組めるウォーキングや軽運動の普及 ○身近な場所で参加できる運動教室・スポーツの機会の充実 ○子育て世代が参加しやすい時間帯・環境への配慮 ○健康づくり施策と連携した運動習慣化の啓発

（4）　高齢者の介護予防・生きがいづくりスポーツの推進

▶関わり方：する・つながる/あつまる　　ＳＤＧｓ：３

高齢化の進行に伴い、介護予防やフレイル予防の観点から、継続的な運動習慣の確立が重要となっています。

仲間とともに楽しみながら続けられる運動機会を提供し、健康寿命の延伸と生きがいづくりを支えます。

主な取組	内容
介護予防・生きがいづくりの推進	○介護予防・フレイル予防に資する軽運動・体操の普及 ○交流の機会の確保と、仲間づくりにつながる活動の支援 ○地域のサロン活動と連携した運動機会の提供 ○移動手段や冬季の活動制約に配慮した、身近な会場での運動機会の確保

（5）　障がい者スポーツ及びインクルーシブスポーツの推進

▶関わり方：する・ささえる・つながる/あつまる　　ＳＤＧｓ：３・５

障がいの有無にかかわらず、誰もがスポーツに参加できる環境づくりを進めます。

障がい者スポーツの機会を充実させるとともに、子ども・高齢者・多様な市民が共に楽しめるインクルーシブスポーツを推進します。

主な取組	内容
障がい者・インクルーシブスポーツの推進	障がい者スポーツ教室（ボッチャ等）、共生スポーツイベント、指導者の確保

（6）　総合型地域スポーツクラブ・ニュースポーツ等の普及

▶関わり方：する・みる・ささえる・つくる・つながる/あつまる　　ＳＤＧｓ：３・１７

多世代が気軽に参加できる総合型地域スポーツクラブの活動や、ルールが簡単で誰もが楽しめるニュースポーツ・軽スポーツの普及を進めます。

主な取組	内容
総合型地域スポーツクラブの育成・支援	○総合型地域スポーツクラブの活動支援と多世代参加の促進 ○クラブ運営を支える担い手の確保・育成
ニュースポーツ・軽スポーツの普及	○ルールが簡単で誰もが楽しめるニュースポーツ・軽スポーツの普及 ○地域における多世代交流や仲間づくりの場の創出

2　スポーツを支える環境づくりと担い手の育成

【基本目標２　スポーツを支える環境づくりと担い手の育成】

市民が安全・安心にスポーツを楽しめるよう、施設の適切な維持管理と誰もが利用しやすい環境の整備を進めます。あわせて、指導者や地域クラブなど、スポーツを支える担い手の育成・確保を進め、地域全体でスポーツを支える体制づくりを推進します。

（1）　スポーツ施設の維持管理・利活用の推進

▶関わり方：する・つくる　　ＳＤＧｓ：１１

施設の老朽化や維持管理の負担、冬季の利用制約が課題となっています。

計画的な維持管理・修繕を進めるとともに、利用促進や情報発信の充実により、施設の有効活用を図ります。

主な取組	内容
施設の維持管理及び計画的な修繕	定期点検、修繕計画の策定
学校体育施設の有効活用	地域開放の促進、地域スポーツ団体との連携

（２）　スポーツを支える担い手の育成・確保

▶関わり方：ささえる・つくる　　ＳＤＧｓ：１１・１７

少子化や人口減少により、地域スポーツの担い手不足が深刻化しています。

指導者やスポーツ推進委員、地域クラブの育成・支援を進め、地域全体でスポーツを支える体制づくりを推進します。

主な取組	内容
指導者・スポーツ推進委員の育成・確保	指導者養成講座、推進委員の活動支援・研修
スポーツ団体・地域クラブの活動支援	活動費補助、活動場所の確保・調整、地域クラブとの連携強化

（３）　安全・安心な施設環境の整備

▶関わり方：つくる　　ＳＤＧｓ：１１

市民の誰もが安全・安心にスポーツを楽しめるよう、安全管理体制の強化と、誰もが利用しやすい施設環境の整備を進めます。

主な取組	内容
安全管理体制の強化	施設の安全点検、緊急対応体制の整備、安全管理講習
誰もが利用しやすい施設環境の整備	バリアフリー化、多目的トイレ・休憩スペースの設置

３　地域資源を活かしたスポーツの推進

【基本目標３　スポーツを活かした地域の活性化と交流の促進】

本市の豊かな自然環境や地域資源を活かし、スポーツを通じた交流の拡大と地域の活性化を図ります。スポーツイベントや競技スポーツの振興を通じて、市内外の人々の交流を促し、まちのにぎわいを生み出します。

（1）　地域イベント推進

▶関わり方：みる・つくる・つながる/あつまる　　ＳＤＧｓ：１１

地域の祭りやイベントと連動したスポーツ振興を推進し、市内外の交流を広げます。

主な取組	内容
地域イベントと連動したスポーツ振興	地域祭りと連動したスポーツ大会、特産品を活かしたスポーツフェス

（2）　自然環境を活かした屋外スポーツの推進

▶関わり方：する・つくる　　ＳＤＧｓ：１１

本市の豊かな自然環境を活かし、トレイルランニングやウォーキングなど、誰もが親しめる屋外スポーツを推進します。

主な取組	内容
自然環境を活かした屋外スポーツの推進	ウォーキングイベント、水辺のスポーツ体験会

（3）　競技スポーツの振興と次世代アスリートの育成

▶関わり方：する・みる・ささえる　　ＳＤＧｓ：３・４

市民に夢や感動を与える競技スポーツの振興を図るとともに、次世代を担う選手の発掘・育成と指導者の資質向上を進めます。

主な取組	内容
競技スポーツの振興	競技大会の開催、競技力向上プログラム
次世代アスリートの発掘・育成	ジュニア選手育成キャンプ、優秀選手への奨励



スポーツ教室の様子(R8:プロから学ぶ！バスケットボール教室)



地域イベント「よりまる」での様子(図書交流施設よみまる)

第５章　計画の推進にあたって

本計画を実効性のあるものとするためには、市民、地域、団体、学校、行政など多様な主体が連携し、それぞれの役割を果たしながら計画を推進していくことが重要です。

本章では、推進体制、各主体の役割、進行管理の仕組み、成果指標を示します。

１　推進体制

本計画の推進にあたっては、教育委員会を中心に、学校、スポーツ関係団体、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、関係部局等と連携しながら、総合的かつ計画的に施策を推進します。

また、健康、福祉、障がい、地域づくり等の分野と連携し、スポーツの多面的な価値を活かした施策展開を図ります。さらに、スポーツ推進審議会において、計画の進捗状況の点検や施策に関する意見を得ながら、実効性の高い推進を図ります。

２　各主体の役割

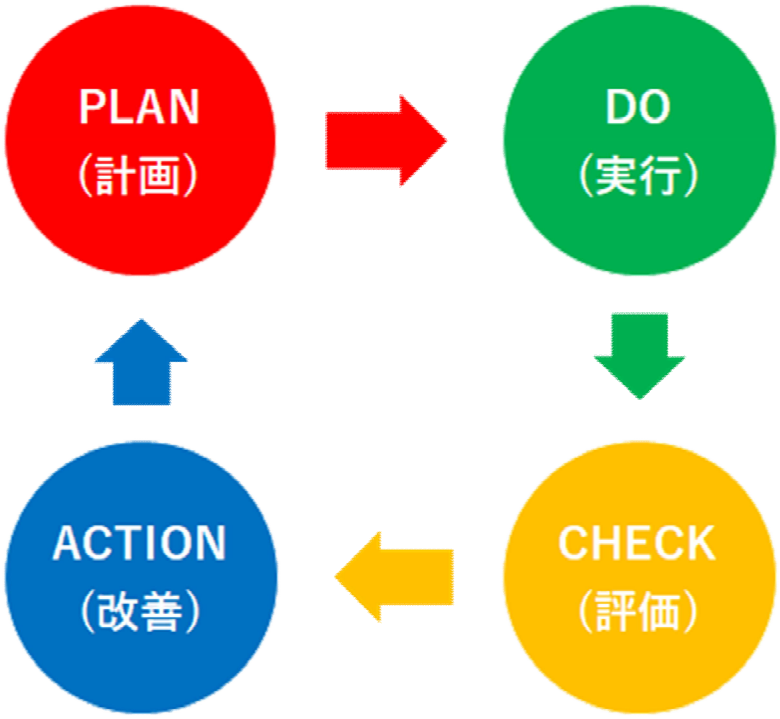
計画の推進にあたり、それぞれの主体が期待される役割を果たすことで、地域全体でスポーツを支える体制を築きます。

主体	期待される役割
市民	自らのライフスタイルに応じてスポーツに親しみ、健康づくりに取り組む。地域の活動やイベントに参加・協力する。
地域・町会	身近な場での運動機会づくりや、世代を超えた交流の場づくりを担う。
スポーツ団体・地域クラブ	活動の場の提供、指導、大会運営などを通じてスポーツの機会を支える。
学校・認定こども園	児童生徒の体力向上と運動習慣の定着を図るとともに、地域と連携した運動機会を提供する。
指導者・スポーツ推進委員	専門的な指導や、地域のスポーツ活動の企画・調整を担う。
事業者・関係機関	職場での運動促進や、健康づくり・地域イベントへの協力を行う。
行政（市・教育委員会）	施策の企画・調整、環境整備、担い手育成、情報発信など、計画全体を推進する。

3　進行管理（ＰＤＣＡサイクル）

本計画に基づく施策を着実に推進するため、ＰＤＣＡサイクルにより継続的な進行管理を行います。また、社会状況の変化や国・県の動向を踏まえ、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

段階	概要
Ｐ（ＰＬＡＮ：計画）	基本目標・施策・成果指標に基づき、年度ごとの取組を計画します。
Ｄ（ＤＯ：実行）	多様な関係主体と連携し、具体的な取組を実施します。
Ｃ（ＣＨＥＣＫ：評価）	成果指標の達成状況や取組の実施状況を毎年度把握し、スポーツ推進審議会等で点検・評価します。
Ａ（ＡＣＴＩＯＮ：改善）	評価結果を踏まえ、翌年度以降の取組を見直し・改善します。 ※社会状況の変化や国・県の動向を踏まえ、必要に応じて計画内容自体の見直しも行います。



4　成果指標（ＫＰＩ）

計画の実効性を高めるため、施策の成果を把握できる指標を設定し、毎年度その達成状況を確認します。

施策分野	成果指標（ＫＰＩ）	現状値 Ｒ７年現在	目標値	測定方法
ライフステージ	成人の週１回以上の スポーツ実施率	２９．０％	４０％以上	市民意識調査
ライフステージ	新体力テストの全国平均を 上回る項目数 全８種目	小５男　３種	増加	体力テスト結果
		小５女　３種		
		中２男　５種		
		中２女　３種		
ライフステージ	高齢者向け介護予防教室の 参加者数	２，１９８人	増加	参加者数集計
ライフステージ	障がい者スポーツ教室の 実施回数	―	増加	実施回数記録
環境づくり	スポーツ施設の利用者数	２４７，０１７人	２５０，０００人	利用実績集計
環境づくり	指導者の育成数	―	増加	登録数集計
地域資源	スポーツイベントの参加者数 （市外含む）	１，１９０	増加	参加者数集計

5　計画の周知・啓発

計画を市民に広く周知し、スポーツへの参画を促すため、広報ひらかわ、市ホームページ、ＳＮＳ等を活用した情報発信を行います。

また、計画の概要をまとめた概要版やリーフレット等を作成し、市民が理解しやすい形での普及に努めます。

第６章　市内スポーツ施設概要

【ひらかわドリームアリーナ】

多様な競技に利用できるようメインアリーナとサブアリーナを設置し、１，１０２席の観客席を有する施設として令和２年４月に供用を開始しました。

地域スポーツと健康を支える拠点施設として期待されるほか、大規模な災害が発生した場合には、緊急避難場所や、地域防災拠点としての機能も併せ持った施設となっています。

観客席には車いすスペースを設け、エレベーター、オストメイト対応トイレなどのバリアフリーの施設となっているほか、子どもが遊べるキッズスペースも設けるなど、高齢者や障がい者をはじめ、子育て世代なども含めた多くの市民が快適に利用できる施設となっています。

競技面数：バスケットボール　　３面（メイン２面、サブ１面）
　　バレーボール　　３面（メイン２面、サブ１面）
　　ソフトテニス　　２面（メイン２面）
　　バドミントン　　１１面（メイン８面、サブ３面）



(メインアリーナ)



(サブアリーナ)



(キッズスペース)

【平川市陸上競技場】

８レーン全天候型の一周４００ｍトラックとなっています。天然芝のフィールドはサッカーやグラウンド・ゴルフの練習、大会の会場としても広く利用されています。
また、夜間の利用も可能です。



【平賀多目的広場】

陸上競技場に隣接しており、野球やソフトボールの練習や大会のほか、天然芝を活用してサッカーやグラウンド・ゴルフなど様々な競技や市内認定こども園の運動会等レクリエーションスポーツにも広く利用されています。



【平賀屋内運動場（楽天イーグルスひらかドーム）】

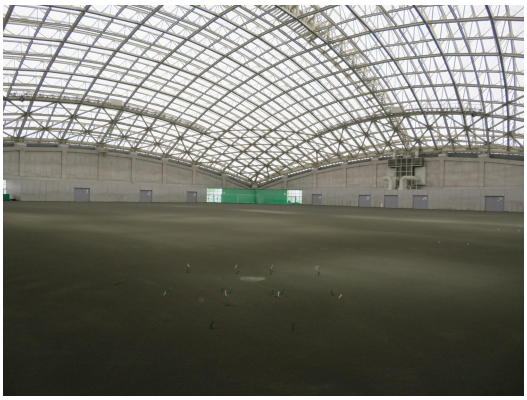
屋内グラウンドは一年を通して野球、ソフトボール競技を始め、グラウンド・ゴルフやサッカーなどに利用されています。

また、外周は一周２８５ｍのランニングコースが整備され、自分のペースで周回することができることから、多くの方々に健康・体力づくりの場として利用されています。

トレーニングルームには、バーベルや各種トレーニングマシンが備え付けられていることから、有酸素運動、筋力トレーニング、体幹トレーニングなど幅広い運動が可能となっています。



（ひらかドーム全景）



（屋内グラウンド）



（ランニングコース）



（トレーニングルーム）

【平賀テニスコート】

夜間照明設備が整備され、人工芝コートを６面整備しています。市内スポーツ少年団、大学のサークル等の団体、個人の方々に利用されています。





【平賀屋内温水プール（清掃管理屋内プール）】

屋内の温水プールで、２５ｍコースが７つと幼児用プールが整備され、個人利用のほか、市内小学校の授業等を始め、幼児から高齢者までを対象とした水泳教室や、水中でのエクササイズ等様々な教室で利用されています。



（施設外観）



（施設内部）



【尾上野球場（楽天イーグルス尾上スタジアム）】

夜間照明設備と電光掲示板が整備されており、両翼９２ｍ、センター１２０ｍの球場で、バックスタンド、イス席、内外野芝生を合わせると４，０００人が収容可能です。

㈱楽天野球団と球場命名契約を締結しており、「楽天イーグルス尾上スタジアム」の愛称で親しまれ、小学校から社会人の各種公式大会や練習で利用されています。



（施設外観）



（グラウンド）

【尾上多目的広場】

両翼が７０ｍの多目的広場です。少年野球から還暦野球、ソフトボールなどの各種大会のほか、天然芝を活用して、サッカーなどさまざまな競技の練習で利用されています。



【尾上テニスコート】

全面ハードコートのテニスコートを５面整備しています。市内のスポーツ少年団、大学のサークル等の団体や、個人の方々に利用されています。



【Ｂ＆Ｇ尾上海洋センター】

バスケットコート１面、バレーボールコート２面、バドミントンコート３面が配置できます。地元のバレーボールクラブや、小学生のバレーボールクラブの練習、平川市スポーツ協会主催の体力づくり教室等や、個人の方々にも利用されています。

【尾上体育館】

地元中学生のバレーボールの練習やサッカークラブの冬期間練習などにも利用されています。



（施設外観）



（施設内部）

【市内小・中学校体育館】

市内の小・中学校の体育館は、児童生徒の教育活動の場として、スポーツ活動や、文化活動等が実施されるなど、重要な施設となっています。

さらには、スポーツ基本法により学校教育活動以外に各種競技団体などに体育館を開放しており、広く市民が利用できる施設として非常に重要な役割を担っています。

利用する各種競技団体などは、学校体育館の使用におけるマナーを守り、利用者が責任を負うことで学校との信頼関係を築きながら、継続して利用しています。



【 資 料 】

1　ＳＤＧｓとスポーツ施策の関連表

本計画の施策	関連するＳＤＧｓのゴール
ライフステージに応じたスポーツ活動の充実	３・４・５・１７
スポーツを支える環境づくりと担い手の育成	１１・１７
地域資源を活かしたスポーツの推進	３・４・８・１１

2　国・県・市の関連計画との整合表

関連計画	本計画への反映内容
国：スポーツ基本計画	基本理念、多様な関わり方、インクルーシブスポーツ、部活動の地域展開
県：青森県スポーツ推進計画／部活動地域展開推進計画	地域クラブ育成、担い手確保、健康づくり、競技力向上
市：平川市経営戦略基本構想	「こどもや若者が夢を持ち成長できるまち」の実現、ＳＤＧｓを原動力としたまちづくり
市：健康ひらかわ２１	健康スポーツ教室、介護予防運動教室
市：教育振興計画・教育大綱	学校体育施設活用、児童生徒の運動習慣づくり

平川市スポーツ推進審議会委員名簿

任期：令和８年６月１日～令和１０年５月３１日

NO.	氏　　名	所属・役職
1	小　玉　正　志	ＮＰＯ法人平川市スポーツ協会　副会長
2	小田桐　真由美	ＮＰＯ法人平川市スポーツ協会　理事
3	齋　藤　三千義	平川市スポーツ少年団　本部長
4	高　木　千代子	平川市スポーツ推進委員
5	木　村　　浩	平川市校長会　（平賀西中学校　校長）
6	田　中　美　和	平川市健康福祉部子育て健康課　主任保健師
7	福　士　幸　司	平川市連合ＰＴＡ　監事
8	加賀谷　由　紀	平川市子ども会育成協議会　副会長
9	山　口　勇　一	平川市行政委員連絡協議会　理事
１０	工　藤　清　満	社会福祉法人　平川市社会福祉協議会　事務局長

平川市スポーツ推進委員名簿

任期：令和８年４月１日～令和１０年３月３１日

NO.	氏　　名	種目・特技	備　考
1	下　山　美津子	ソフトボール、水泳	
2	斉　藤　　晃	ボウリング	
3	清　藤　節　子	バレーボール	委員長代理
4	佐々木　昌　子	テニス	
5	大　湯　博　美	エアロビック	
6	葛　西　智江子	水　泳	
7	小田桐　真由美	ソフトテニス	
8	齋　藤　　誠	ソフトボール・インディアカ	
9	高　木　千代子	ダンス、エアロビック	
１０	山　田　恵　子	水泳	
１１	鳴　海　貴　嗣	野球・バドミントン・インディアカ	
１２	木　村　圭　佑	バスケットボール・自転車	
１３	佐　藤　善　彦	ソフトテニス	
１４	木　村　千鶴子	ダンス	
１５	成　田　厚　子	陸上・ダンス	
１６	後　藤　悦　祐	野　球	
１７	佐　藤　祐　輔	陸上（短距離）	
１８	今　井　亮　太	体操・ダンス	委　員　長
１９	葛　西　湧　也	体操・ダンス	委員長代理
２０	西　村　哲　寿	バスケットボール	
２１	岩　渕　　静	水泳	
２２	齋　藤　小百合	ヨガ・ピラティス	
２３	天　内　和　宏	サッカー・バルシューレ・高齢者向け脳トレ	

○　スポーツ少年団、クラブ等一覧

令和8年9月1日現在

NO.	団名、クラブ名	競技種目											団員数①（人）	指導者数②（人）	①／②（％）
		軟式野球	ソフトボール	サッカー	ソフトテニス	バレーボール	バスケットボール	バドミントン	陸上	水泳	空手	野外活動			
1	ひらかベースボールクラブスポーツ少年団	○											10	3	3.3
2	尾上サッカークラブスポーツ少年団			○									88	8	11.0
3	尾上BBCスポーツ少年団	○											18	2	9.0
4	平賀フットボールクラブスポーツ少年団			○									18	3	6.0
5	平川市ソフトテニススポーツ少年団				○								30	6	5.0
6	ガンバソフトテニススポーツ少年団				○								10	4	2.5
7	平川ＭＢＣスポーツ少年団						○						22	6	3.7
8	ひらかわジュニアソフトボールクラブ		○										18	4	4.5
9	平川Jr.ベースボールクラブ	○											20	5	4.0
10	B&G尾上海洋クラブ					○				○	○	○	54	13	4.2
11	ひらかわスイミングクラブ									○			59	6	9.8
12	平川ジュニアアスリート								○				38	5	7.6
13	南黒アブレイズ	○											37	6	6.2
14	尾上BBC中等部	○											14	2	7.0
15	ひらかわスポーツクラブ							○					30	3	10.0
	合　計	5	1	2	2	1	1	1	1	2	1	1	466	76	6.1

○　NPO 法人平川市スポーツ協会加盟団体一覧

令和8年9月1日現在

NO.	団体名	会員数（人）		
		大　人	子ども	計
1	平川市インディアカ協会	15		15
2	ウエイトリフティング協会	20		20
3	平川市グラウンド・ゴルフ協会	73		73
4	平川市ゲートボール協会	5		5
5	平川市ソフトテニス協会	28		28
6	平川市テニス協会	15		15
7	NPO法人スポレクダンスクラブ平川	29		29
8	平川市バスケットボール協会	25		25
9	平川市ボウリング協会	10		10
10	(財)日本空手協会平賀支部	9	25	34
11	平川山岳会	24		24
12	平川水泳協会	33		33
13	平川市陸上競技協会	43		43
14	平川市卓球協会	23		23
15	平川市野球協会	134		134
16	平川市ソフトボール協会	35		35
17	平川市バレーボール協会	53		53
18	平川市バドミントン協会	25		25
19	平川スキークラブ	18		18
20	平川市柔道協会	15	3	18
21	平川市スポーツ少年団	201	177	378
22	平川市サッカー協会	30	88	118
23	平賀歩行会	44		44
24	平川愛弓会	7		7
25	平川市ゴルフ協会	150		150
26	平川鉄人会	17	13	30
合　計		1,081	306	1,387

○　ひらかわスポーツクラブ教室一覧

令和8年9月1日現在

NO.	教室名	会員数（人）
1	ジュニアバレーボール教室（現在休止中）	0
2	子供水泳教室	259
3	選手育成教室	59
4	成人水泳教室	45
5	アクアエクササイズ	6
6	健康塾	4
7	子供体操教室	45
8	ヨガ教室	23
9	バドミントン教室	24
10	スラックライン教室	12
11	ジュニア野球教室	10
12	ソフトテニス教室	13
13	シェイプアップ教室	4
14	カヌー・SUP教室	5
15	アクロバット教室	4
合　　計		513

○　スポーツ施設利用実績

区　　分			利用者(人)				
			令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
総合運動施設	アドリーナ	アリーナ(ﾒｲﾝ･ｻﾌﾞ)	21,247	46,154	59,776	68,605	64,329
		会議室等	867	2,385	5,355	5,284	8,948
	ひらかドーム	平賀屋内運動場	16,950	25,887	26,925	22,539	21,039
		会議室	4,423	6,267	7,248	4,956	5,763
		ランニングコース	4,202	6,342	7,075	6,237	6,315
		トレーニングルーム	5,561	7,535	9,642	12,648	13,316
	平川市陸上競技場		14,028	16,756	17,066	20,812	20,931
	平賀多目的広場		8,111	10,458	12,913	13,213	9,640
	平賀屋内温水プール		21,872	26,006	25,780	25,043	26,377
	平賀テニスコート		9,298	11,346	14,073	12,592	12,994
B&G尾上体育館			10,292	14,270	16,990	18,056	19,841
尾上野球場			8,079	9,552	9,804	12,113	10,568
尾上テニスコート			1,779	1,826	1,529	1,924	1,270
尾上会議室			406	633	1,075	1,962	1,484
尾上多目的広場			5,109	5,749	7,437	7,974	6,855
尾上体育館			9,718	15,050	18,597	18,354	17,347
小　　計			141,942	206,216	241,285	252,312	247,017



【ひらかわドリームアリーナ全景】

平川市スポーツ推進計画

■発行年月　令和９年３月
■発　　行　平川市教育委員会
■編　　集　平川市教育委員会スポーツ課
（ひらかわドリームアリーナ内）
〒036-0114 青森県平川市町居南田２４９
TEL：0172-26-7429
FAX：0172-26-7920
E-mail：sports@city.hirakawa.lg.jp